



## 《本のご案内》

# 島根 核 発電所 原発 その光と影

山本 謙 著  
古浦義己 編  
企画：一般財団法人 人間自然科学研究所  
発行：三和書籍  
A4判 378頁  
定価：4500円+税

著者略歴：1929年、島根県松江市（旧東出雲町）生まれ。1946年、松江農林学校卒業後、島根県職員となる。経済部、土木部、総務部を経て、厚生部薬務環境衛生課公害係長、環境保健部公害課主幹及び課長補佐として、一貫して島根原子力発電所の立地と放射能対策等に関する業務を担当。以後、企画部、商工労働部、島根県人事委員会事務局長を務め、1986年退職。現在、山本行政書士事務所長。



島根原発と松江市の街並み

た経験のある、原発推進の内部事情に通じた「生き字引」である。実務家だけに、議会の議事録、安全協定の文案、町誌や新聞記事、ビラなどの貴重な記録を手堅

著者は昭和21年（1946年）から昭和61年（1986年）までの40年間、島根県庁に勤め、その間、島根原発の立地と放射能対策等に関する業務を担当した経験のある、原発推進の内部事情に通じた「生き字引」である。

実務家だけに、議会の議事録、安全協定の文案、町誌や新聞記事、ビラなどの貴重な記録を手堅

ちなみに本書には、「資料」として、「原発のないふるさと」を」と題された「鳥取県気高郡連合婦人会講演記録・資料」も収められている。鳥取県青谷町の原発建設計画を、精力的な学習活動と膨大な反対署名で中止に追い込んだ、地元婦人会の活動の記録である。3号機を誘致した島根原発の地元の実情、経緯と照らし合わせて読めば、多くの示唆を得られる。

13年も先だつて島根を訪れたP・ケンパーマンである。次の一章では6人のお雇い外国人技術者の物語を紹介した。ゼーム・ワットソンはたたら製鉄を訪問し、海軍納入の鉄材供給地を調査した。地質学者のB・S・エイマンは安来出身の安達仁造と伴つて、たたらや銀山の調査を行つた。P・サルダは鉱山技術者、建築家で、大森鉱山と雇用契約を結んだ。冶金技師のW・ガウランドは日本の通貨統一貢献したが、県内の古墳調査ために来県している。日本の水事業を指導したデ・レーケは横浜の修築工事で島根県技師とは

「ゆう科学通信」は皆様からのご意見、情報を基礎に発信しています。ご投稿はメール、アクセスでお願いいたします。	著者略歴：1950年、島根県益田市生まれ。信州大学大学院工学研究科修了。1976年、島根県内の工業高校に勤務。講師、教諭、副校長を務め、2011年退職。現在、島根大学教育学部嘱託講師、島根の近代化産業遺産調査研究グループ代表、島根県山岳連盟国際委員。著書に『サイバン・モンゴル 自然・人・生活—島根とモンゴルの交流史—』『P・ケンパーマンの「明治10年山陰道紀行」』、チベット仏教求法僧・能海寛関係の論文多数。
(問合せ： <a href="mailto:okamoto-hidetoshi@gmail.com">okamoto-hidetoshi@gmail.com</a> )	

「ゆう科学通信」  
ご意見、情報を  
お聞かせください。

著者略歴：1950年、島根県益田市生まれ。信州大学大学院工学研究科修了。1976年、島根県内の工業高校に勤務。講師、教諭、副校長を務め、2011年退職。現在、島根大学教育学部嘱託講師、島根の近代化産業遺産調査研究グループ代表、島根県山岳連盟国際委員。著書に『サイハン・モンゴル 自然・人・生活—島根とモンゴルの交流史—』『P・ケンバーマンの「明治10年山陰道紀行」』、チベット仏教求法僧・能海寛関係の論文多数。

# 島根原発はこうして始まった。

「夢の芽生える文化」創造のプラットホーム  
「八雲志人館」は、将来に向けて持続可能な  
地域を創出することをめざして活動します

く、ある意味では坦々と紡いでいる。それだけに、当事者だけが経験し、知ることのできる「インサイド情報」が短く書き込まれた箇所が光る。

# 島根とお雇い外国人技術者たち

# 島根の近代化産業遺産物語

岡崎秀総  
変型 A5 判 342 頁



触があつた。衛生工学技術者W・K・バルトンは伝染病に悩む公二のく頭調査を行ふ、七

む松江の水源調査を行ない、その創設に関わった。次章では、島根の近代化産業遺産物語と題して、工業教育、電気事業、灯台建設のルーツに関わる物語を書き、最後に、松江出身で日本